

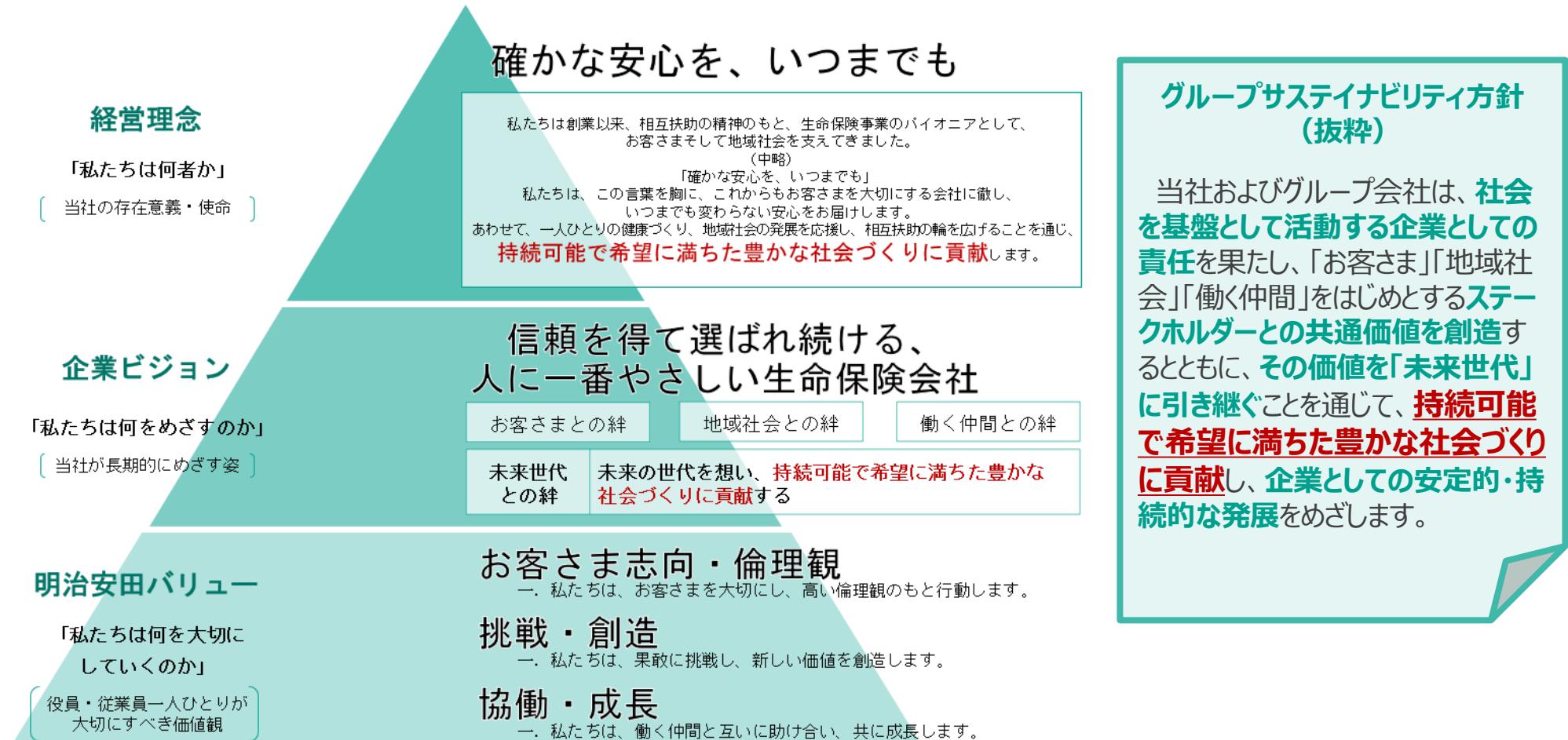
インパクトコンソーシアム 第3回データ・指標分科会

明治安田のサステイナビリティ経営における具体的取組み

2025年12月25日
運用企画部 責任投資推進担当
青木 圭介

明治安田フィロソフィーにおけるサステイナビリティの位置づけ

- 明治安田フィロソフィーにおける「経営理念」「企業ビジョン」に**「持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりへの貢献」**を掲げており、これをふまえ、グループサステイナビリティ方針（ステートメント）にもこれを明記



明治安田の「優先課題（マテリアリティ）」

- 当社はSDGsの目標から導き出される社会課題のうち、当社のステークホルダーへの影響度と事業との関連性の観点から、**8項目を「優先課題（マテリアリティ）」として特定**。その解決への貢献を通じ、**社会的価値と経済的価値の双方の向上**をめざしている

2「大」プロジェクト等を通じて注力

健康寿命の延伸（★）



地方創生の推進（★）



事業者・機関投資家双方の立場から社会的価値を創出

環境保全・気候変動 への対応（★）



機関投資家としての責任投資 を通じた持続可能な社会づくり



等

子どもの健全育成



DE&Iの推進（★）



金融サービスへの 平等なアクセス確保



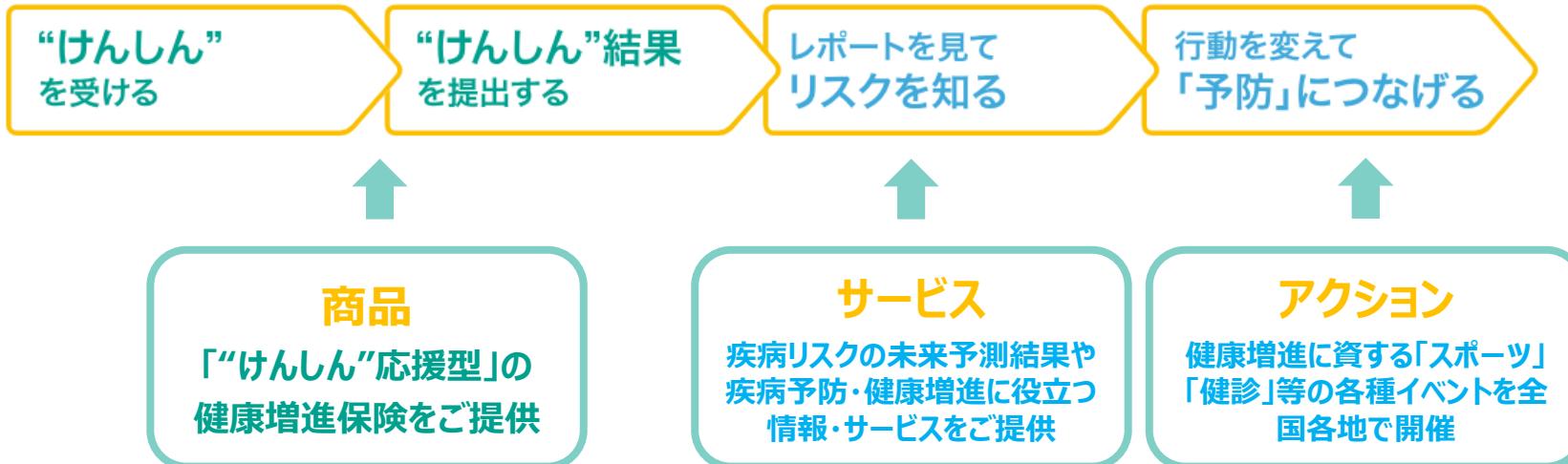
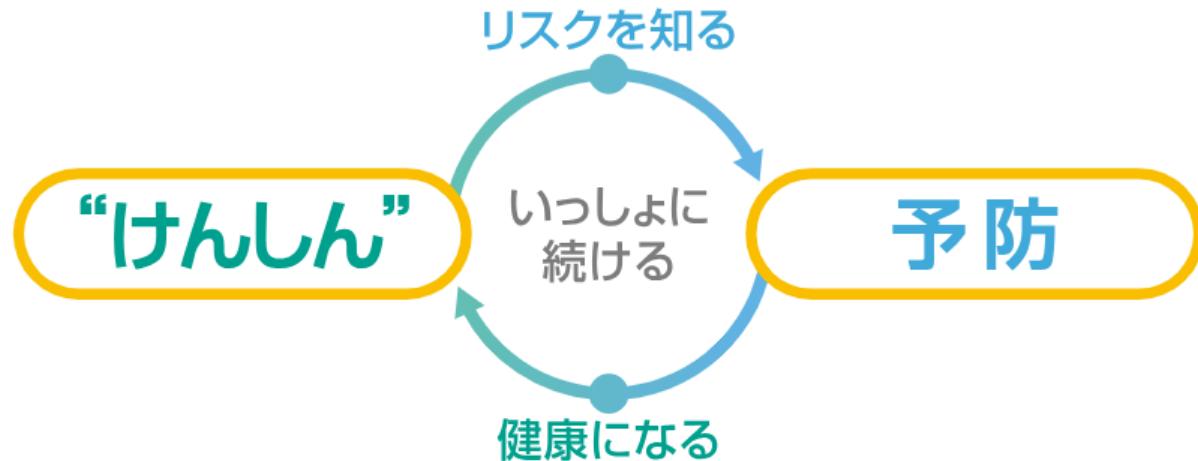
人権の尊重（★）



★：グループベースで取り組む優先課題

事業者としての優先課題への取組み

- 「みんなの健活プロジェクト」では「“けんしん”応援型」の健康増進保険をご提供し、より多くのお客さまに定期的に健康診断やがん検診等を受けていただくとともに、未来のリスク予測をお届けすることで、疾病「予防」に向けた前向きな取組みを後押し



健康寿命の延伸 ～みんなの健活プロジェクトの効果①

- 「“けんしん”と予防」の健康改善サイクルの継続を通じて健康状態の改善に貢献

健康診断結果が改善した加入者の割合※3

BMI

血糖値

肝機能(γ-GTP)

中性脂肪

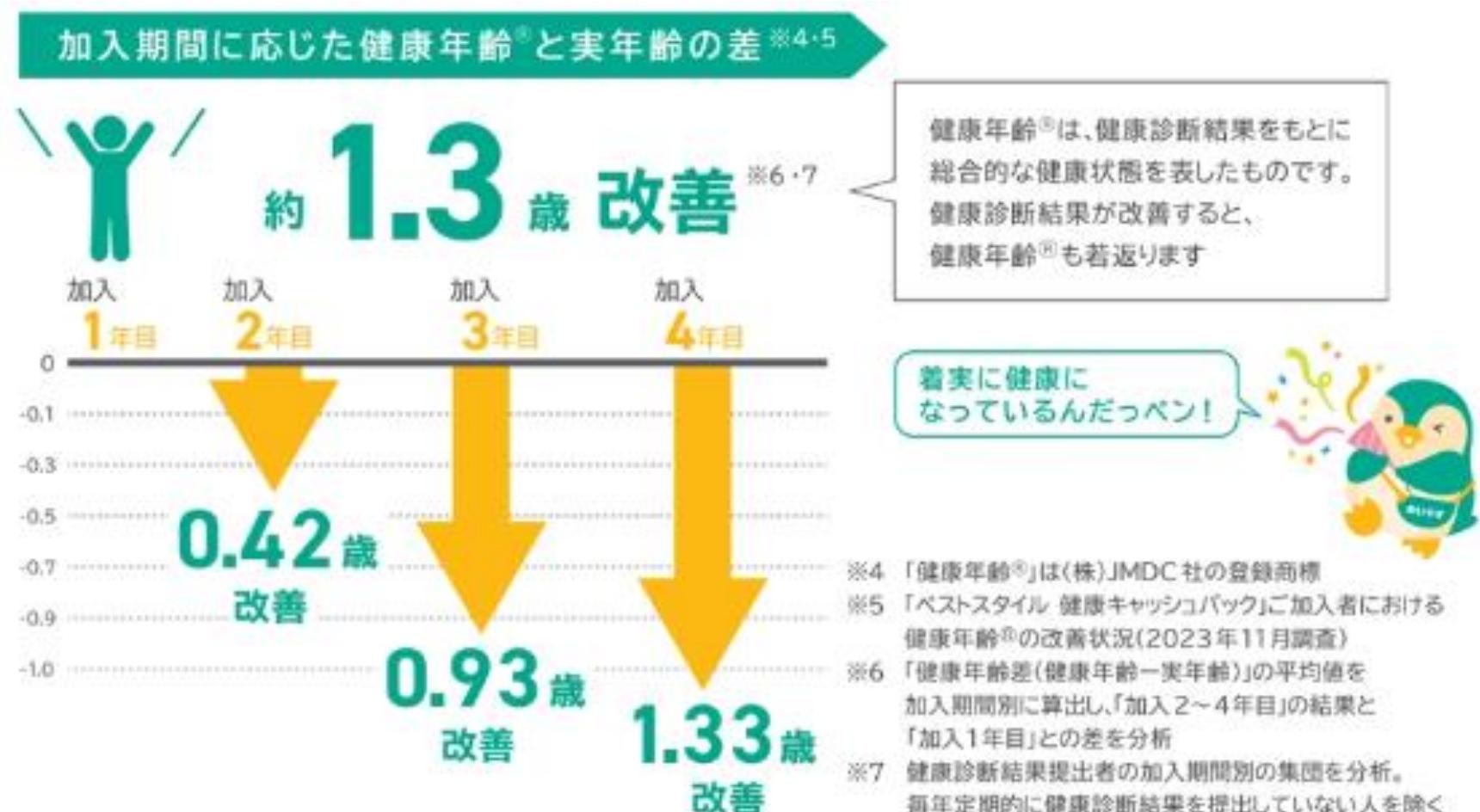
血圧

26.6%	25.1%	51.3%	69.8%	39.4%
が改善	が改善	が改善	が改善	が改善

※3 「ベストスタイル 健康キャッシュバック」ご加入者で「健康サポート・キャッシュバック」のお支払いが2回以上完了している方のうち、直近の健康診断結果の数値が、最も悪かったときの数値から一定程度以上改善した方の割合(2023年11月調査)
(BMI値は30kg/m²以上の方が1kg/m²以上低下。血糖値は100mg/dl以上の方が10mg/dl以上低下。
γ-GTP値は50U/L以上の方が10U/L以上低下。中性脂肪値は150mg/dl以上の方が10mg/dl以上低下。
血圧(収縮期)は130mmHg以上の方が10mmHg以上低下)

健康寿命の延伸 ～みんなの健活プロジェクトの効果②

- 「“けんしん”と予防」の健康改善サイクルの継続を通じて健康状態の改善に貢献



健康寿命の延伸 ～みんなの健活プロジェクト「MY健活レポート」

- お客様にご提出いただいた健診結果と、給付金などのご請求履歴などからわかる既往歴から、お一人おひとりの総合的な健康状態を精緻に分析し「健活年齢」を算出
- 「健活年齢」とは、**長年にわたり蓄積してきたベストスタイルご加入のお客さま（約130万人分）の医療ビッグデータを活用して独自に開発した総合的な健康状態を年齢で表す指標**

疾病リスクの未来予測結果や、疾病予防や健康増進に役立つ情報・サービスをご提供しています



MY健活レポート



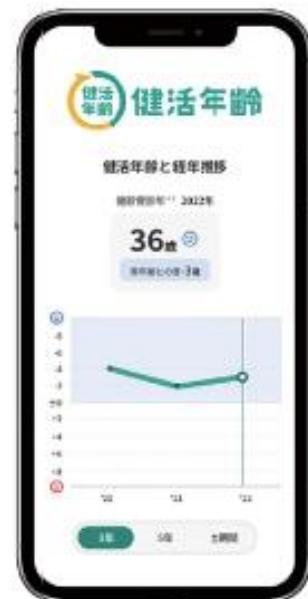
2025年10月
特許取得

疾病予防や健康増進、早期発見等にお役立ていただける各種サービスをご用意しています

ご提出いただいた健康診断結果をもとに、約 780万人分の医療ビッグデータで分析した、疾病リスクの未来予測結果をご提供しています

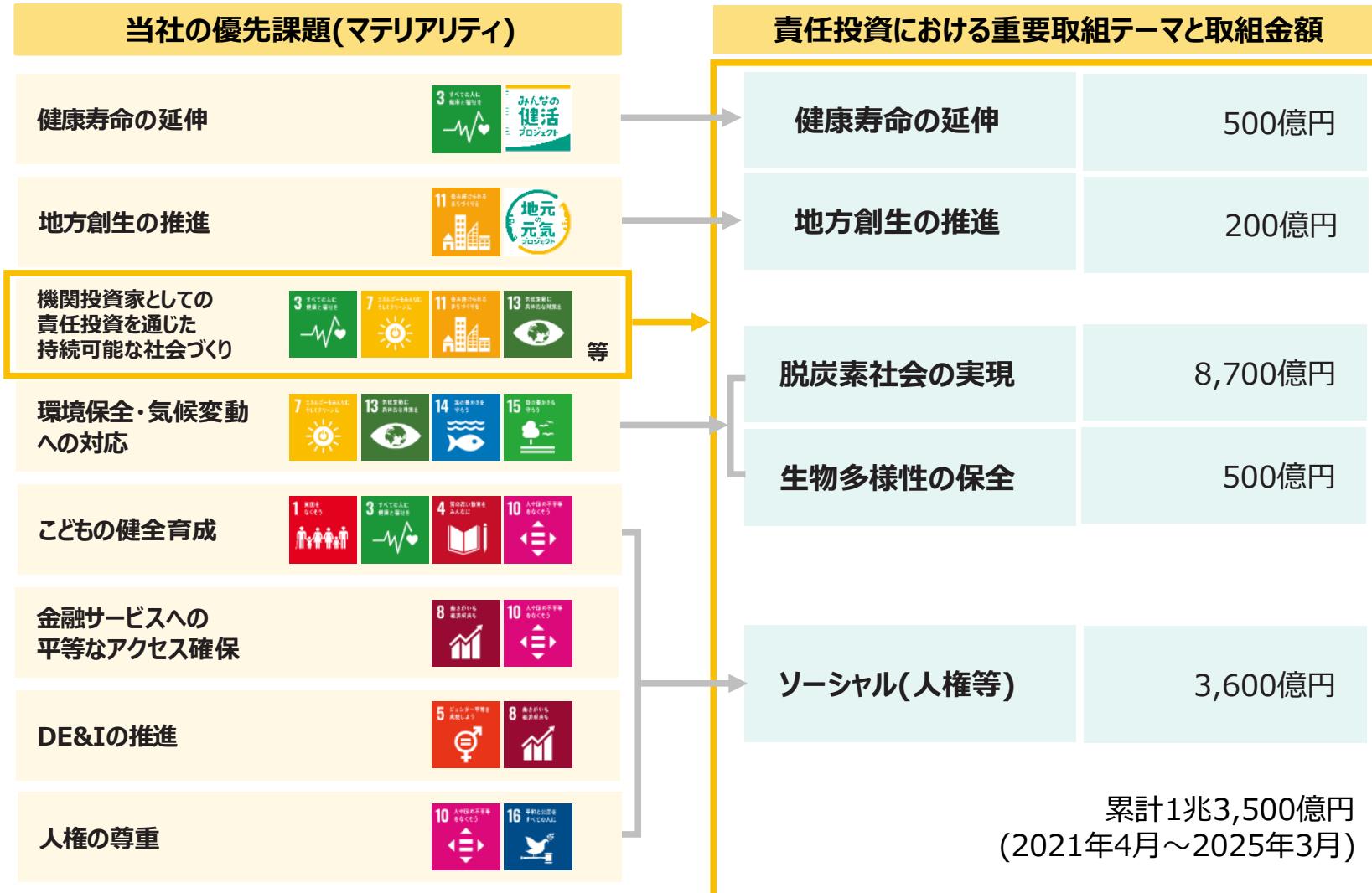
当社に蓄積された医療ビッグデータをもとに独自予測モデルを開発。これを活用して、健康状態を精緻に分析した「健活年齢」を算出し、MY健活レポートでご提供しています

MY健活レポート(イメージ)



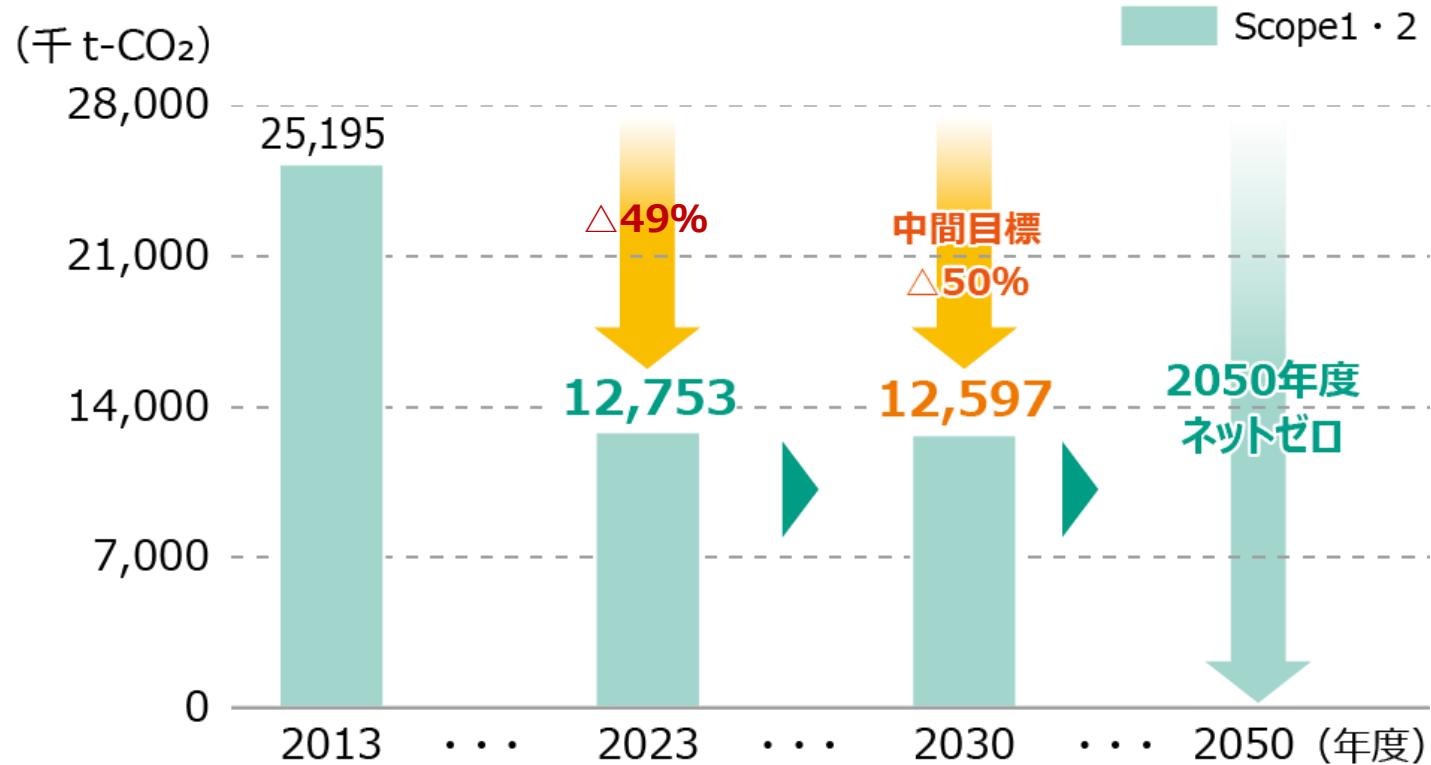
機関投資家としての責任投資の取組み

- 2024年度に「優先課題(マテリアリティ)」を見直し、「機関投資家としての責任投資を通じた持続可能な社会づくり」を追加
- 責任投資における5つの重要取組テーマを設定し、投融資とエンゲージメントを通じたインパクト創出に取組み



- 2023年度の投融資ポートフォリオにおけるCO₂総排出量は△49%まで削減しており、2030年度の中間目標に向けて順調に進歩

投融資ポートフォリオのCO₂総排出量(注)



(注)対象は国内上場企業の株式・社債・融資

- トランジション・ファイナンスは、脱炭素社会の実現に向けた移行戦略に則り、企業の着実なCO2排出削減の取組みを支援
- 当社は、社会全体の脱炭素化に向けて、収益性の確保を前提にトランジション・ファイナンスを積極的に推進
- 当社ポートフォリオのCO2排出量の削減ペースが一時的に鈍化する可能性があるが、2050年ネットゼロの目標は不変

当社の基本的な考え方

基本スタンス	<ul style="list-style-type: none">• <u>収益性の確保を前提として、積極的にトランジション・ファイナンスを推進</u>
対象業種	<ul style="list-style-type: none">• 原則として、国内の多排出セクター（電力・鉄鋼・化学）（注1）
対象資産	<ul style="list-style-type: none">• 日本政府または地方公共団体の発行する債券、国内企業向けの融資・社債、国内プロジェクト・ファイナンス、国内ノンリコースローン
判断基準	<ul style="list-style-type: none">• 原則として第三者意見付きの案件またはICMAおよび国の定める要件を満たす案件（注2）
投融資 ポートフォリオの CO2排出量	<ul style="list-style-type: none">• <u>当社ポートフォリオのCO2排出量の削減ペースが一時的に鈍化する可能性があることを許容するものの、2050年ネットゼロの目標は不変</u>

(注1) 経済産業省の技術ロードマップ作成業種

(注2) 原則としてICMA「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」および経済産業省「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」に沿って判断

インパクトファイナンスの推進

- インパクトファイナンスは、「社会や環境に対してポジティブなインパクトをもたらすことを目的とする投融資」で、ESG投融資の発展形と位置づけ、2021年度から取組みを開始
- 現中計（2024～2026年度）目標金額の1,700億円に対して、2024年度実績は約840億円と順調に進捗

インパクトファイナンスの目標と実績

インパクトファイナンスについては、2024年度の取組みが順調であったことから、**現中期経営計画(2024-2026年度)の目標金額を1,200億円から1,700億円に引き上げました。**

2024～2026年度目標

1,200億円 → 1,700億円

1,700億円

1,200億円

約840億円

約600億円

2021-23年度実績

2024年度実績

2024-26年度目標



案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
東京ウェルネスインパクトファンド	2023年3月	10億円	健康寿命の延伸

ウェルネス領域(医療・介護・健康・社会/経済)における課題解決をはかるインパクト志向のスタートアップ企業に投資し、「健康寿命の延伸」におけるインパクト創出をめざします。

<投資先企業と設定しているKPIの例(抜粋)>

企業	アイリス(株)：病院や医師向けの人工知能技術(AI)関連医療機器を開発するスタートアップ企業
インパクト KPI	インフルエンザAI診断カメラ「nodoca」の『導入件数』：47都道府県の1,000施設以上の医療機関への導入完了
	インフルエンザAI診断カメラ「nodoca」の『利用回数』：検査を受けた累計患者が10万人に到達

(出所)[東京ウェルネスインパクトファンド2024 インパクトレポート](#)

案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
EEI 5号イノベーション&インパクト投資事業有限責任組合	2023年12月	10億円	脱炭素

Energy Transition、Mobility & Transportation および Smart Society の 3つの投資領域を設定し、各領域における社会課題の解決に寄与するスタートアップへの出資を通じて、脱炭素を中心とする社会課題解決に貢献し、社会的インパクトの創出に努めます。

<設定しているKPIの例(ファンドレベル、抜粋)>

KPI	実績(2023-2024年)	KPI	実績(2023-2024年)
CO ₂ 排出削減量	5,453 (t-CO ₂)	フードロス削減量	12,414 (t)
省エネ量	98.2 (GWh)	リサイクル資源量	159,468 (t)

案件名	投資時期	投資額	該当する重要取組テーマ
明治安田ホール福岡	2023年8月	10億円	脱炭素、健康寿命の延伸

「明治安田ヴィレッジ」として2023年8月に開業した「明治安田ホール福岡」への投資を、国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)が提唱する「ポジティブ・インパクト不動産投資」に選定しています。

本ポジティブ・インパクト不動産投資の概要

- 面積約240m²、シアター形式240席、スクール形式120席を収容するホールを新設
- 「こころの健康」や「からだの健康」に関するイベントを定期的に開催し、地域住民の健康への意識向上や健診受診率の引上げを通じて、健康寿命の延伸を後押し
- ホールの電力消費量の100%について地産地消型の再生可能エネルギーを導入

<設定しているKPI>

(第三者意見取得済み)

ポジティブ・コアインパクト	健康寿命の延伸	 3 すべての人に健康と福祉を	[アウトカム指標] ・健康づくりに取り組んでいる人の割合 ・特定健診受診率	- (2024年度のアウトカム指標未公表)
ネガティブ・コアインパクト	CO ₂ の排出	 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を	[モニタリング指標] ・エネルギー消費量 ・CO ₂ 排出量 ・再生可能エネルギー比率	[2024年度実績] ・2,516,754kWh ・0t-CO ₂ e ・100%

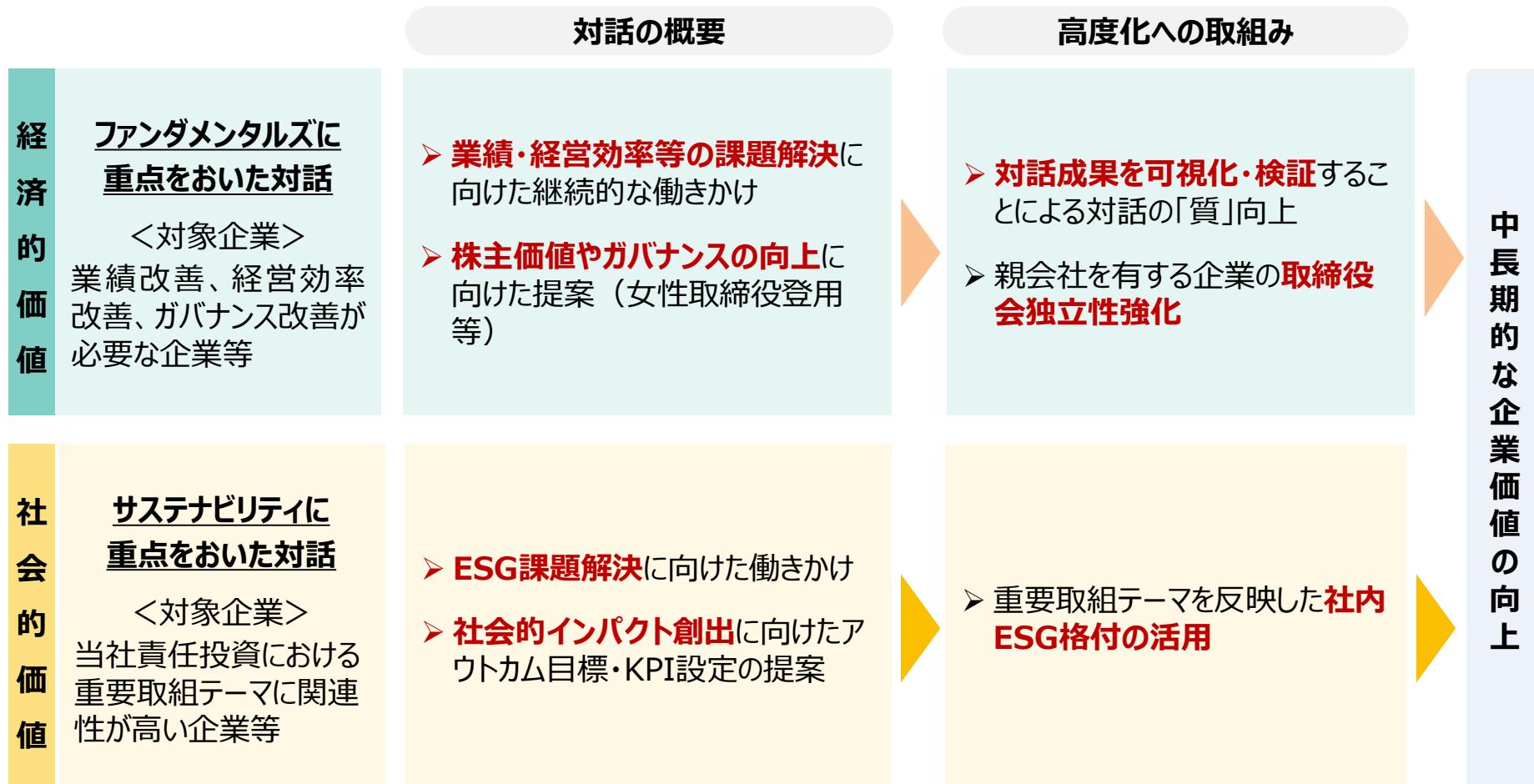
本取組みでは、CSRデザイン環境投資顧問株式会社より、ポジティブ・インパクト不動産投資フレームワーク(注1)等との整合性や、特定したインパクトおよびその評価指標の妥当性等について、第三者意見を取得しています(注2)。

(注1)投資家がインパクトに基づいた投資を実践するために、意思決定の指針となるよう、UNEP FI不動産ワーキンググループによって策定された行動指針

(注2)詳細は[CSRデザイン環境投資顧問株式会社のウェブサイト](#)参照

エンゲージメントの取組み

- 投融資先企業の持続的成長を促すため、中長期的な視点から、投融資先企業との「建設的な対話」を通じて、**課題改善やインパクト創出に向けた取組みを提案**
- 業績・経営効率等、財務面の課題解決に向けた**「ファンダメンタルズに重点をおいた対話」**に加え、社会的インパクトの創出につながる**「サステナビリティに重点をおいた対話」**を実施



- 当社では、2021年度から非財務情報に特化した「サステナビリティに重点をおいた対話」を開始
 - 投融資ポートフォリオのCO₂排出削減に向けて、CO₂削減に受けた取り組みを働きかけ

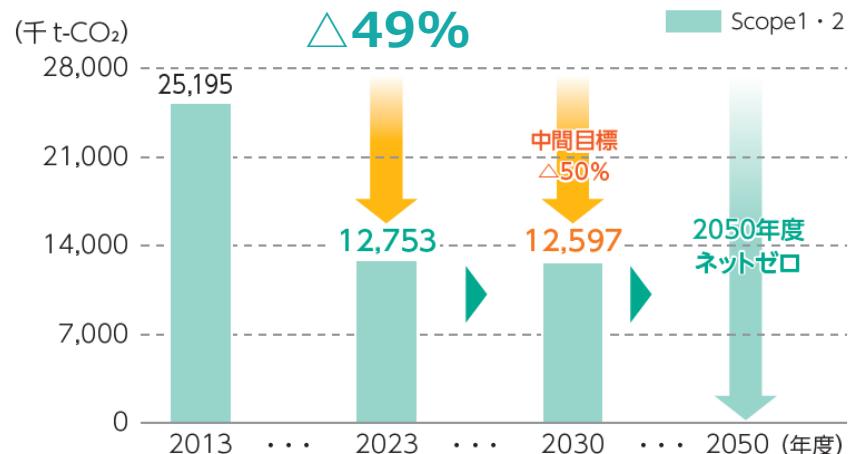
A社（非鉄金属）

対話の概要	企業の反応等	改善状況・今後の方針
<p>対話時期：2021年</p> <ul style="list-style-type: none">当社投融資ポートフォリオにおけるCO2多排出企業「2030年の排出削減目標が相対低位」、「TCFDの気候変動による財務影響の開示がない」等の課題認識を共有し改善を要望	<ul style="list-style-type: none">「技術改善」、「省エネ」、「再エネ電力への切替え」等により、現状の2030年目標は達成の見通し政府目標(▲26%→▲46%)の見直しや、事業ポートフォリオの見直しに伴い、より積極的な目標の設定・開示の方向性を確認	<ul style="list-style-type: none">2024年に再度対話を実施要望していた「排出削減目標の引き上げ(▲47%)」やScope3目標設定など、取組み・開示が大きく改善TCFDの財務影響度は大中小で開示。残存課題である金額ベースの開示についてモニタリングを継続

＜対話により改善した企業の割合＞

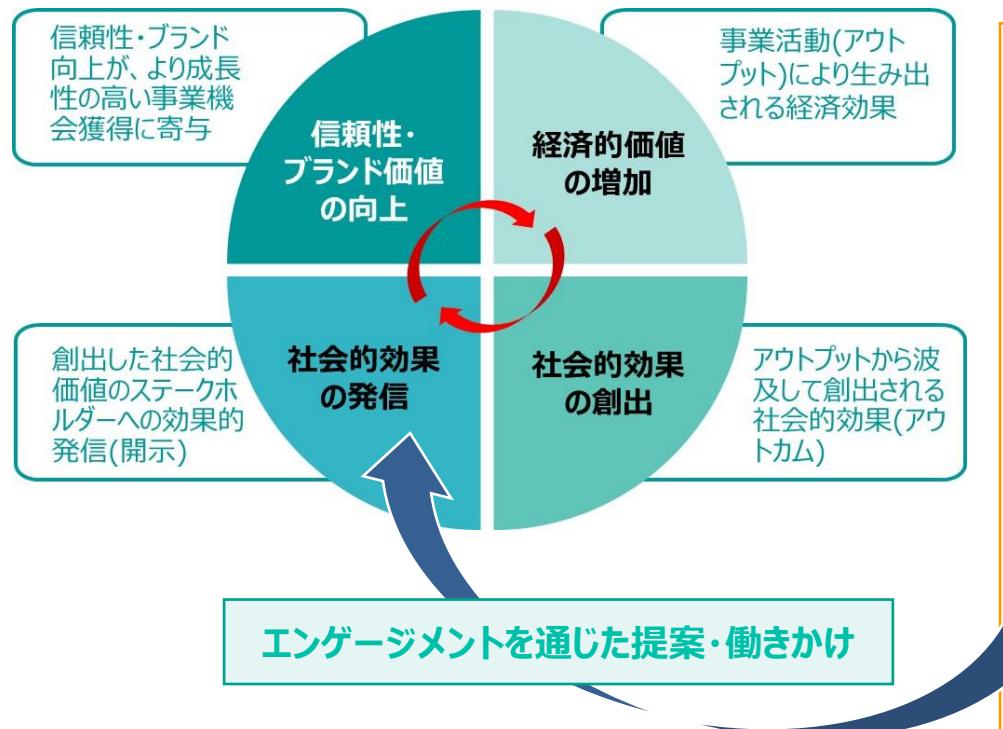
項目	割合
総量ベースのCO2削減目標の設定	100%
カーボンニュートラルに向けたロードマップ作成	100%
TCFDの気候変動が財務へ及ぼす影響についての開示充実	76%
2030年度CO2削減目標の引き上げ	33%

＜投融資ポートフォリオのCO2総排出量＞

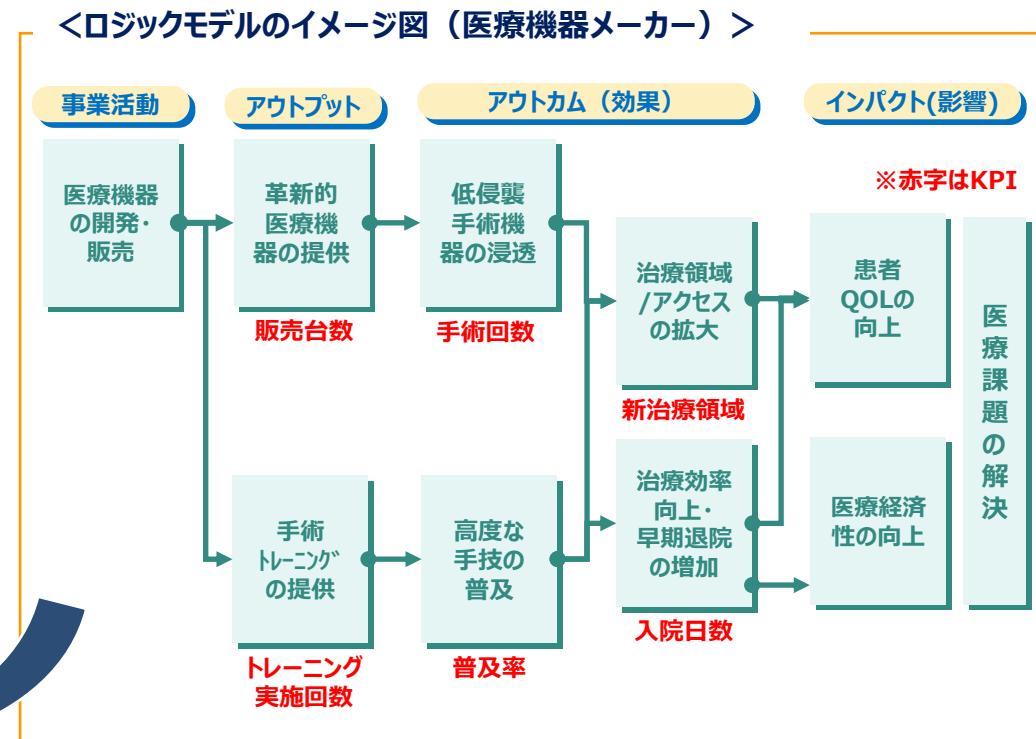


- 企業の事業活動が創出する社会的価値の効果的な情報発信が、中長期的に社会的価値と経済的価値の好循環を生み出すとの前提で、主に、「**健康寿命の延伸**」と「**地方創生の推進**」をテーマに、ロジックモデルを活用した社会的効果（アウトカム）の定量的開示を提案し、企業と建設的な意見交換を実施

社会的価値と経済的価値の好循環



ロジックモデルを活用した提案型対話



当社ESG投融資・対話による社会的インパクト（2025年度開示）

- 2024年度時点における当社責任投資の取組みを通じ創出された社会的インパクトを開示
- テーマ債の発行体やファンドの委託運用会社が発行するインパクトレポート等のデータをもとに、**投融資金額に比例した当社帰属分のインパクトを算出**

重要取組テーマ	アウトカム		インパクト
脱炭素社会の実現	 CO ₂ 排出削減寄与量	約 655 万t	気候変動の緩和
	 再生可能エネルギー発電量	約 147 万MWh	
	 CO ₂ 削減貢献量	約 57 万t	
	 カーボンクレジット創出量	約 199 t	
生物多様性の保全	 廃水・汚水処理量	約 4 億m ³ /年	生態系の保護
	 陸域・水域の保全	約 5,786 ha	
	 リサイクル資源量	約 5,316 t	
	 フードロス削減量	約 414 t	
ソーシャル	 ソーシャルボンド投資を通じた総受益者	約 533 万人	社会的公正の実現 社会基盤の向上
	 女性への教育・就労機会等の支援	約 116 万人	
	 衛生環境の改善	約 89 万人	
	 教育機会の改善	約 78 万人	
	 保健・フードプログラムの提供	約 76 万人	
	 社会的セーフティネットの提供	約 43 万人	
健康寿命の延伸	 スポーツ施設の増改築	約 11 ha	QOLの向上
	 運動の機会・質が向上した受益者数	約 14 万人	
	 ヘルスケアサービスの最終受益者数	約 12 万人	